

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 Kきっずひので

公表日 令和7年3月15日

放課後等デイサービス

利用児童数 12名

回収数 8人

		チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	6	2			もう少し庭が広いと遊びが広がりそう。	子供たちが安全に楽しく活動できるように配慮しながら、広い公園へ遊びに行く機会なども設けていきます。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	6	1		1		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	6	1		1	玄関や庭への出入りするところは段差が大きいと感じる。	玄関や庭への出入りの段差は今使用しているものプラス、さらに使いやすい工夫をし、安全に配慮していきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	6	1		1	暑い夏でも草むしりなどして下さってきれいにしている。 個別での指導、集団での指導と両方あり子供の実態の応じて考えてくれている。	清潔で、心地よく過ごせる工夫をこれからもしてまいります。
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	8				どのように支援していくかの計画がしっかりされている。説明も丁寧。	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	8					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	8				子供に合った無理のない計画を立てて、どのように支援していくかの計画がしっかりされている。説明も丁寧。	
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	7			1	「家庭支援」というところで曜日や回数の希望が出せないのが残念。	家庭支援は子供たちの成長にとって重要な要素であり、意見をしっかりと受け止め今後の支援の向上に努めていきます。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	8					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	7			1	色々なイベントがあり子供が楽しそう。	1人のスタッフが常に課題を設定するのではなく、人を替えることで固定化しない工夫をしている。 教材の工夫や季節や行事なども取り入れた活動で固定化しないようにしている。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	5	1		2	子供から○○行ってきた！○○してきた！とお話してきてくれます。	年1回のイベントがあるので、周知をしっかりと行い、参加していただける工夫をしていきます。
保 護 者 へ	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	8				「説明」という所でいつも忙しそうないメージがある。	ゆっくり説明できるように練習を重ねて参ります。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	8					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	5	1	1	1		今後検討し実施できるようにしていきます。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	8					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	8				面談は事前に日程を組んで時間を作ってほしい。 悩みを記入すると電話等で相談に応じてくれますぐうれいす。	定期的な面談の中で、ニーズや課題を客観的に分析し、計画を立てたうえで保護者様に分かりやすく説明してまいります。 感染症対策などで対面が叶わなかったこともあり、今後は対面でお話できる機会を設けていきます。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	8					

の 説 明 等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2	2		4	夏休みなど親子イベントがあるが、利用の曜日でないと参加が出来なかったり人数の関係もありまだ参加できなかったことがない。 長期休みに保護者同士の交流が出来るイベントに参加しました。これにより色々な情報を得ることが出来ました。 きょうだいのイベントのお知らせをいただき、参加している。	様々な体験活動を取り入れ、交流の機会とします。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	8					
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	8					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	8					連絡アプリでの連絡となり、すぐに発進されたものを見ることが出来るのでとても便利です。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	8					
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	7		1		定期的避難訓練が行われているので素晴らしいです。 子供からも色々な訓練をしたことを聞きます。	毎月訓練を行っています。 各マニュアルを保護者様へ周知できるように努めます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	8				定期的に訓練されている。	
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	8					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	8					
満 足 度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	8				職員を見ればニコニコしているので、また、事業所でのことを話しをしてきているので安心して利用が出来ていると思います。	
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	8				とても楽しみに通っています。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	8				子供に合わせた支援をしてくださってとても助かっています。 成長している実感があります。	

公表

事業所における自己評価結果

放課後等デイサービス

事業所名		Kきっずひので		公表日		令和7年3月5日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	1	利用者が多い場合は教室を分けたりし、狭く感じない工夫をしている。 行事によって庭や講堂などを使用し、活動内容を工夫しています。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	1	古い建物のため、バリアフリーではない所もあるが、段差も訓練の一つととらえ、段差が難しい子には特に配慮しながら支援している。 送迎表の掲示やロッカーの配置では見やすくわかるようになっている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		掃除の時間を設けたことで、自分たちで環境を整えることも学んでいる。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		必要に応じて、活動を分けている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6		全職員が子どもと関わりを持ち活動をしています。毎日の振り返りで支援の見直しや目標を設定して全職員で共有しています。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		評価後に会議を設け、問題点などを協議し、その内容を改善につなげている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		業務会議では支援の中での困りごとや課題を共有し、改善策を出し合って業務改善につなげている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6	第三者による評価は実施していません。 相談支援専門員や他事業所との意見を聞き業務改善につなげています。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		福祉行政による事業所連携会議やケース会議、虐待防止研修など積極的に参加しています。 また、法人内での研修を充実させ、学ぶ機会を設けていることで各事業所とも交流でき情報交換が出来る。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		S領域を踏まえ、支援プログラムの見直しを行い作成し、HPにて公表している。		
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		個々の実態に即した計画となるよう、日々の様子を記録に残し評価している。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		それぞれの視点から子どものニーズを検討することで、より包括的な支援計画が策定される。また、計画の見直しでは会議を開催し、各自の観察や意見を共有する機会を設けている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		常に共有する場を設け、計画に沿った支援が行えるようにしている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		こどもの適応行動についての情報を収集し、様々な環境での子どもの行動を理解し確認している。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		子供の特性を踏まえて活動のバランスと考えながら行っています。		

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		チームで考える機会(日頃の申し送り時や会議等)を設け、立案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		1人のスタッフが常に課題を設定するのではなく、人を替えることで固定化しない工夫をしている。教材の工夫や季節や行事なども取り入れた活動で固定化しないようにしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		個々に合わせ個人課題ではその子の能力や課題となる部分を明確にし、提供したり、集団活動をプログラムを基に提供し、支援を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		外出支援などは事前に計画し、打ち合わせを徹底している。毎朝、職員間で打ち合わせを行い、情報を共有し1日の支援の流れをチーム全体で支援を行う工夫をしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		保護者からの連絡や子どもたちの様子を共有し、支援に活かすことが出来ている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		個人記録・課題チェック・支援記録などの記録を充実させている。また、記録を振り返り、支援の検証や改善につなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		定期的にモニタリングを行い、必要に応じて調整する会議を設け、全員が関与し続けることが出来る環境を整えている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6		全てを含めた総合的な支援を行うことを基本とし、1人1人の支援計画に沿って組み合わせ支援を行っている。	
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		意思決定が難しい場面でも、子が持っている潜在能力をエンパワメントし、自ら意思決定できるよう支援を行っている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		市の行政機関と連携し、各関係機関と情報共有し、支援の一貫性を図っています。	
	27	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6			
	28	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか。	6		学校の連絡アプリに登録したり、適切に行い情報共有している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6		移行の際に情報共有を行い、相互理解に努めている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6		地域の児童発達センターとの連携を行っているが、助言等の機会はまだ進められていない。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6		まちなか展覧会というイベントを開催し、利用児だけではなく、地域の住民や色々な方たちとの交流の場を設けています。	
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	3	3	地域の関係者と集まり、地域における課題や関係機関の連携を図った会への参加をしている。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		家庭連携を密に、情報の共有を行いご家族の困りごとにも寄り添っている。	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6			今後検討し開催していく。	
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約時に説明させていただいています。不明な点等は随時職員が説明するようにしています。		

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		計画を作成する際には、支援に関わる全職員が参加し、子どもの最善の利益を考慮した検討を行うことを重要視しています。また家族からのフィードバックを積極的に取り入れるために、意向を把握する機会を設けています。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		定期的なモニタリング時に相談の時間などを設けています。保護者様の不安に寄り添い、相談しやすい体制を整えています。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		6		今後検討していく。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		送迎の際や電話、メールなどで相談や支援を行っています。必要に応じて面談を行い家庭と密に連携しています。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		毎月ホームページで広報を掲載したり、子どもたちの様子をブログ等で伝えています。また、連絡アプリを活用し、常に情報を共有しています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		個人情報の持ち出し禁止など取り扱いに注意しています。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		全職員で情報を共有し、正確な情報伝達が行えるよう配慮しています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6		年に1回程度イベントを開催し、地域の子供たちなどにも参加いただき活動する機会を設けています。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		月1回、避難訓練を実施しています。また記録を取り改善に繋げています。マニュアルに関しては随時更新し、周知をしています。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		月1回、避難訓練を実施しています。また記録を取り改善に繋げています。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6		事前に保護者様と情報を共有し、変更があった場合などもすぐに新しい情報を取り入れ、職員や関係機関と共有している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		事前にご契約の際に保護者様に確認をし対応にあたっている。おやつや飲物に気を付けています。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		ヒヤリハット事例集を作成し、危機管理を職員間で共有しています。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		虐待防止の研修に参加し、適切に対応しています。また、虐待防止委員会を設け、年間の計画に基づき対応している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		子どもの安全確保を最優先にやむを得ず、身体拘束をする場合がある旨を個別支援計画書に記載し、保護者様に了承しています。		

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	株式会社ソワーズ Kきっずひので		
○保護者評価実施期間	令和6年 11月 15日		～ 令和6年 12月 13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数) 8名
○従業者評価実施期間	令和7年 1月 15日		～ 令和7年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 14日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が分析され、提供できている。	保護者様から信頼を得る事が出来るようにニーズの把握や問題発生時の対応について優先順位を高く対応している。常に連絡が取れる体制を整え、日頃の様子などを細かに連絡している。 また、送迎を行っているので保護者様と顔を合わせて話が出る機会を取っている。	保護者のニーズを最優先するあまり、特に声が上がっていない事案(保護者会や地域との交流など)について、優先順位が下がっている。 サポートの幅を広げる為にニーズのみを優先する事は改める必要があると感じている。
2	支援プログラムの充実、体験学習などを取り入れた多様な活動場の提供。	こどもの興味を引き出し、学びを促進している。 季節の行事や日本伝統行事を大切に、子どもたちの色々な経験や体験を充実している。	子ども同士の関りのなかで、子ども自身の自主性・主体性が導き出せるよう側面からの支援をおこなっている。
3	保護者支援及び関係機関連携	保護者からの相談(家庭や学校等での困り感)に応じ、問題解決や改善策に積極的に取り組んでいる。 保護者や関係機関等と緊密に連携を図り、その改善策に取り組むことができています。	引き続き、保護者のニーズに応じていけるよう、関係機関との連携を緊密に図っていく。また、保護者の不安や悩みに迅速に対応し、安心していただけるよう努める。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	専門職による支援	作業療法士・言語聴覚士・心理的支援など専門職による直接支援が望まれるが、現段階では確保できていない。	必要な人材が確保できるまでの間、現有の直接支援者が研修を重ね専門性につながる支援に取り組んでいく。
2	子どもに対する家族の対応力向上のための「ペアレントトレーニング」等や家族が参加できる研修の場の提供及び情報提供	保護者からの個別相談に対するアドバイスや助言はできているが、多くの保護者を対象とした研修や情報提供の取り組みはできていない。	今後は年間計画に研修等を組み込むなど、子どもに対する家族の対応力向上につなげていく。
3	保護者会や保護者の研修の場や交流する機会	感染症対策で実施が出来ていなかった。今回保護者アンケートでもニーズを知ることが出来、前向きに検討していく。	今後は年間計画に研修等を組み込むなど、子どもに対する家族の対応力向上につなげていく。